

乳児期と学童期のステロイド使用後に中学2年で皮膚症状が消失した小児アトピーの経過 (16歳女性)

症例 ID：001-16-ST3 | 記録日：2016年7月17日

1. 診断・治療前経過

生後数か月で顔が赤く腫れ、ステロイド外用薬を使用しました。2歳頃に一度落ち着きましたが、小学校4年生頃から全身に再燃し、外用薬が徐々に強くなりました。小学校5年生頃に治療を開始されました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	乳児期と小学校期にステロイド外用薬を使用しました。
製品名	不明です。
強度	治療経過中に強い外用薬へ変更されました。
使用期間	乳児期および小学校4～5年生頃までです。
中止時期	小学校5年生頃の治療開始時です。
来院前／後	来院前に使用歴があります。来院後は使用していません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後2か月頃	乳児期の悪化	顔が赤く腫れ、ステロイド外用を開始しました。
2歳頃	一時軽減	季節性の軽い症状を残して落ち着きました。
小学校4年生頃	全身再燃	全身に症状が広がり、外用薬が強くなりました。
小学校5年生頃	治療開始	ステロイドを中止し、治療を開始しました。
治療初期	症状の強い時期	強いかゆみと皮膚症状が続き、内服を嫌がることもありました。
中学2年生頃	経過後	アトピーだったことが分かりにくいほど皮膚が整い、治療を終了しました。
16歳時	長期経過	化粧を楽しみながら美容学校へ通っていました。

4. ピーク時期

ピークは、小学校5年生頃の治療開始後に強いかゆみと全身症状が続き、治療の継続が精神的にも負担となった時期です。

5. 困りごと

- 本人が治療や内服をつらく感じ、涙を流すことがありました。
- 学童期に全身症状が広がり、外見と生活の両面で負担がありました。

6. 経過のまとめ

中学2年生頃にはアトピーだったことが分かりにくいほど皮膚が整い、治療を終了しました。
16歳時には美容学校へ進み、化粧を楽しむ生活を送っていました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。